

特集 モーダルシフトの推進と物流における課題解決の取り組み

2016年に「モーダルシフト*の推進により物流構造を改革しCO₂排出量削減を目指す」と題した特集を掲載しました。当社物流の取り組みを主導するため2020年に発足した生産本部 生産統括部 物流グループに現状と今後の展望について聞きました。

* モーダルシフト：旅客や貨物の幹線輸送を、大量輸送が可能な鉄道や船舶輸送に切り替えることで、CO₂排出量削減を図る取り組み。

WEB 「CSRレポート2016 モーダルシフトの推進により物流構造を改革し、CO₂削減を目指す」



グループ長
景山 健



係長
斎藤 浩二



主任
勝間田 幸彦



2013年から始まった取り組みの現状について教えてください

CO₂排出量削減活動

物流グループでは発足前の2019年から準備を始め、CO₂排出量削減活動の検討テーマを年度計画に落とし込み、当社工場および国内グループ会社と一緒に取り組んできました。(下表)

鉄道輸送は輸送量や納期で折り合いが付かなかったため区間を増やせず、トラック輸送におけるテーマを増やしてきました。総輸送量の減少から計画通り進まなかったテーマは、時機を捉えていつでも実行できるよう準備しています。

▼ 物流におけるCO₂排出量削減活動 検討テーマ数推移

単位:件

検討テーマ	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
船舶輸送区間の検討	7	9	13	13	14
鉄道輸送区間の検討	4	4	4	4	4
トラック輸送積載率アップの検討	1	2	8	9	9
トラック輸送まとめ受注の検討	0	0	1	1	1
合計	12	15	26	27	28

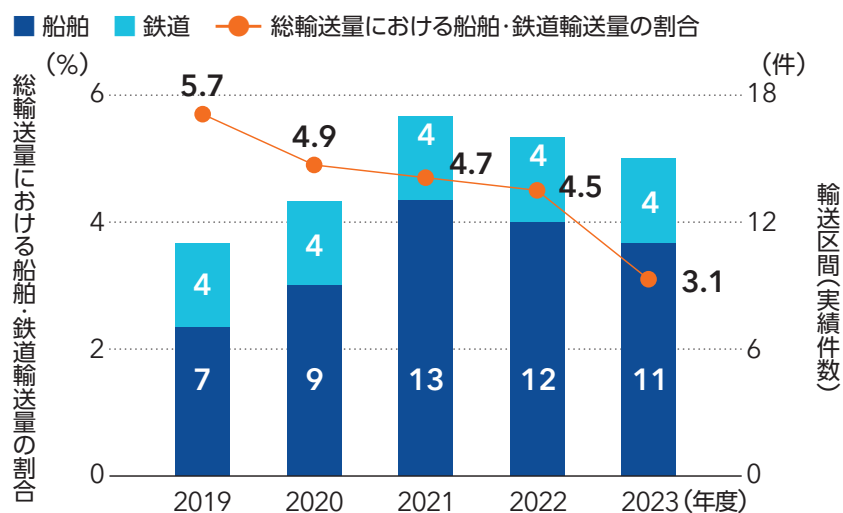


リンテック株式会社

モーダルシフトの推進状況

2016年以降、トラックから船舶、鉄道へ切り替え可能な輸送区間を調査し洗い出して、社内外関係者の協力を得てモーダルシフトを推進してきました。過去5年、総輸送量における船舶・鉄道輸送量の割合は生産拠点の変更や生産量の変動で減少しましたが、船舶・鉄道による輸送区間数を増やし維持するよう努めました。(下グラフ)

▼ 船舶・鉄道の輸送区間数と総輸送量における船舶・鉄道輸送量の割合



より環境負荷の低い物流を目指した取り組み

トラック輸送におけるCO₂排出量削減のため、積載効率の改善に取り組みました。同一製品の大量輸送は二段積み、いくつかの製品の混載輸送はデッキラックを導入し、配車数を減らしつつ従来と同じ品質で輸送できることを確認し、その利用区間を増やしています。



二段積み



デッキラック

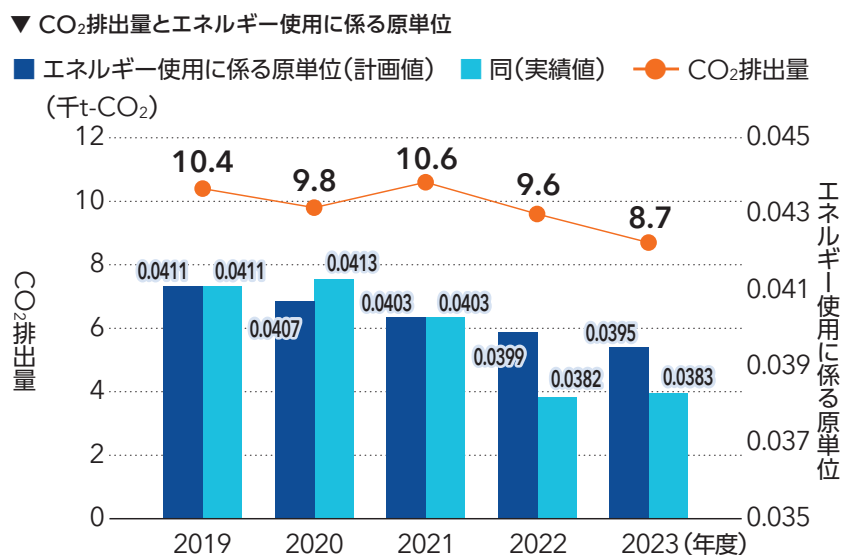


リンテック株式会社

物流におけるCO₂排出量削減の状況

当社では、物流におけるエネルギー使用に係る原単位の年1%削減を目標に活動し、過去5年平均で年1.74%削減しました。一方、従来の取り組みだけではCO₂排出量の削減は限定的で、さらなる取り組みを必要としています。(下グラフ)

今後もエネルギー使用に係る原単位を年1%削減する取り組みを確実に実施しながら、新たな知見・技術を取り入れ、物流におけるCO₂排出量削減を進めていきます。



Q

これまでの取り組みについて、お客様をはじめ、関係者のフィードバックを教えてください

物流構造を改革しCO₂排出量削減を目指す取り組みを積み重ねてきたことで、働き方改革関連法の改正によるトラック運転者不足も軽減・回避できていると考えています。

二段積みやデッキラックへの切り替えに協力いただいたお客様や運送会社様からは「積載効率が上がったことで配車数を削減でき、トラック運転者の負担軽減につながった」「二段積みで荷積み・荷降ろしと入出庫作業の効率を改善できた」などの声を頂戴しています。



リンテック株式会社



CO₂排出量削減から始まった物流における取り組みは、トラック運転者不足や働き方改革などの外部環境変化を取り込んで拡大しています。これからの展望を教えてください

2024年問題への対応とホワイト物流推進運動*に関連し、以下に取り組んでいます。これからもお客様をはじめ関係者の協力を得て、物流構造の改革を継続していきます。

* ホワイト物流推進運動:トラック運転者不足が深刻になっていることに対応し、国民生活や産業活動に必要な物流を安定的に確保するとともに、経済の成長に役立つことを目的とした運動。

1. 輸送運賃の改定

トラック運転者の「働き方改革」を考慮して、運賃を改定しました。

2. 出荷および荷受け時間の調整

お客様の協力を得て当日出荷分の受注時間を早めることにより、トラック運転者の労働時間制限に対応しています。

3. 社内共同輸送

複数工場の製品を1台にまとめて輸送することで、積載効率を上げていきます。

▼ 社内共同輸送の例



リフテック株式会社